

研究主題 総合単元的な道徳学習の創造  
～思いや考えを伝え合い、深め合う道徳の授業作りを通して～

白石町立有明南小学校 校長 大川内加代子  
研究代表 教諭 石戸 伊佐子

## 1 主題設定の理由

「生きる力」の育成は、前回の学習指導要領から引き継がれており、時代の要請である。この「生きる力」とは、変化の激しい社会において、人と協調しつつ自律的に社会生活を送ることができるために必要な、人間としての実践的な力であり、豊かな人間性を重要な要素としている。この豊かな人間性を培う基盤としての道徳教育の充実が現在の重要な課題の一つである。

本校は、児童数127名、各学年単学級の小規模校である。児童は、豊かな自然や、学校に協力的な地域社会の中でのびのびと育ち、純朴で明るく素直である。しかし、反面、お互いのよさや成長を認め合う姿勢が不足がちなため、自分自身のよさや成長に気付くことが難しく、自己肯定感が低く自分に自信が持てない、という傾向がある。

本校では、「心づくり」を教育の重点事項の第一に掲げ、平成18年度より道徳教育の研究に取り組んでいる。平成20年度からは現学習指導要領を先取りし、道徳の時間を中核に、各教科等に関連させながら単元を構成する「総合単元的な道徳学習」を通して授業実践を重ね、児童の心の教育にあたってきた。「総合単元的な道徳学習」を設定し、道徳教育を意図的・計画的に実践し、道徳教育の全体計画に基づき、「道徳の時間の年間指導計画」と「学年における道徳教育年間指導計画」に沿った実践を進めたことで、道徳教育の充実が図られてきた。この研究の積み重ねにより、児童は、徐々に道徳性を養い、道徳的実践力を身に付けてきている。また、地域に目を向け地域への愛着も深まっている。その一方で、児童が自分自身の思いや考えをうまく表現できないという課題が見えてきた。

この課題を解決するために昨年度からは、児童の「かかわる力」《かかわる力を、○相手と思いや考えを伝え合う力 ○「もの・こと・ひと」とのふれあいを通してお互いに高め合う力 ○総合単元的な道徳学習の時間で学んだ道徳的価値を実践する力 ととらえている》をキーワードとして、総合単元多岐な道徳学習の実践を継続しながら道徳教育の充実に取り組んだ。昨年度の反省として、児童が、道徳の時間に「自分の考えを持ち、自分の言葉で語り合うことができていない」ということが挙げられた。

そこで、本年度は、「総合単元的な道徳学習」の実践を土台とし、道徳教育の“要”である道徳の時間の授業作りには焦点を当てた研究を進めることとした。「道徳の時間に、自分の考えを持たせ、自分の言葉で語らせよう」を合言葉として、研究を深めることで、道徳教育の深化を図り、現在育ちつつある道徳的実践力をさらに高めていきたいと考え本課題を設定した。

## 2 研究の目標

- 「総合単元的な道徳学習」を土台とし、児童の思いや考えを伝え合い、道徳的価値を深め合う道徳の時間の授業作りを通して、児童の「かかわる力」を育てる道徳教育の指導の在り方を探る。

## 3 研究の内容と方法

- (1) 児童の道徳性を把握するための実態調査（道徳性アンケート）
- (2) 道徳の時間における指導方法の改善
  - ・ねらいに迫るための話し合いの中心となる課題「テーマ発問」を中心とした学習展開
  - ・伝え合い、深め合う交流タイムの在り方
  - ・思いや考えをまとめる道徳ノート、ワークシートの工夫
  - ・思考を深めるための構造的な板書
- (3) 総合単元的な道徳学習の単元構想の見直しと実践（地域資源・地域人材の活用の実践）

- (4) 評価の実践と評価方法の検証・見直し（総合单元的な道徳学習での評価、道徳の時間での評価）
- (5) 日常生活における道徳的実践力を高める取り組みの工夫
- (6) 家庭や地域、幼保小中とのよりよい連携の工夫

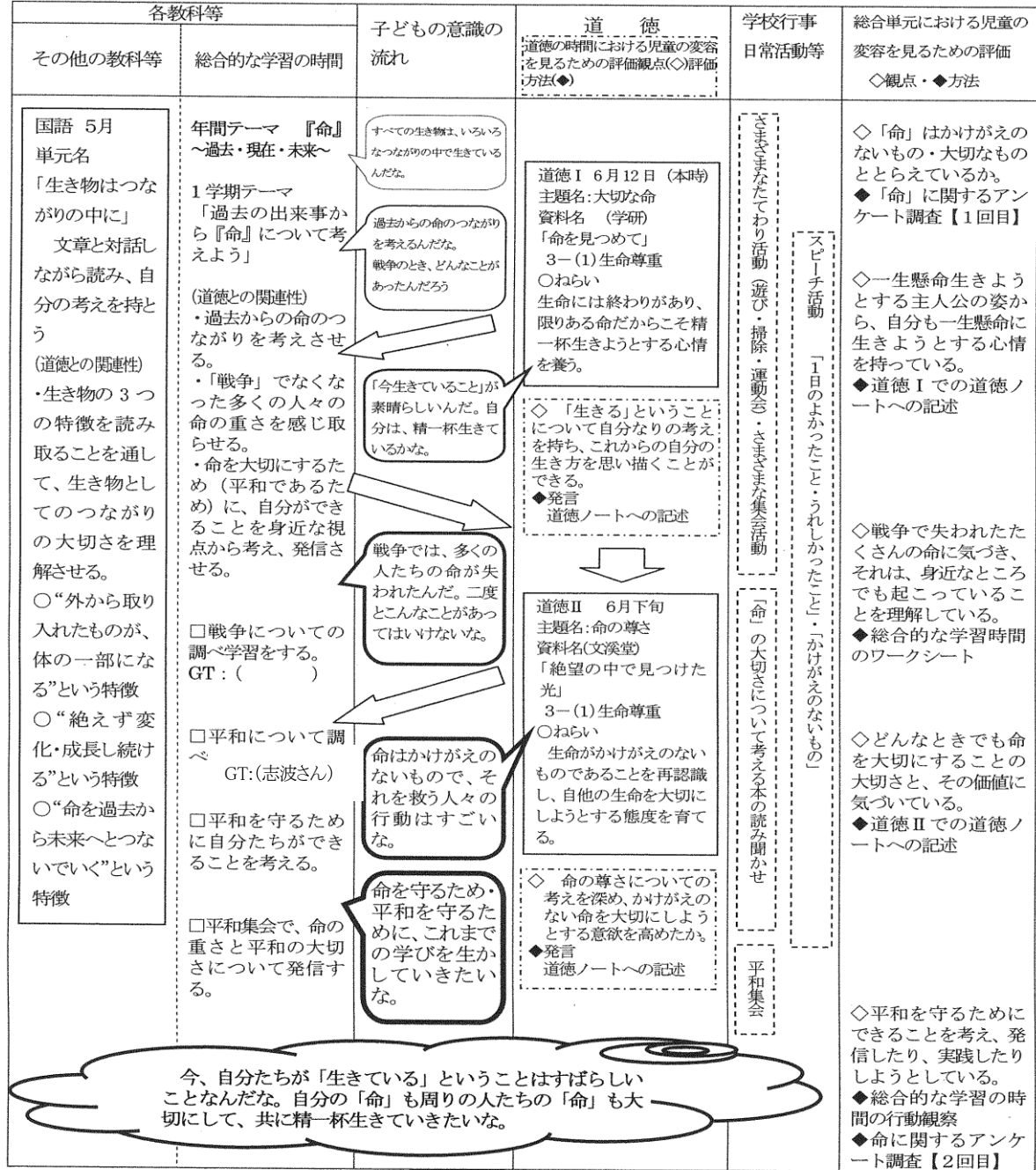
#### 4 研究の実際

##### (1) 事例1 6年1組 総合单元的な道徳学習の授業実践（6月実施）

ア 総合単元名 「かがやけ命 ステージI」

イ 単元のねらい 「生きていること」の素晴らしさに目を向け、自他の命を大切にしていこうとする態度を養う。

##### ウ. 単元構想図



めざす子ども像  
 ○「生きていること」の素晴らしさに目を向け、自他の命を大切にしていこうとする態度を養う子ども

エ 道徳I 主題名 一大切な命— 内容項目3— (1) 生命尊重 資料名「命を見つめて」  
 (ア) ねらい 生命には終わりがあり、限りある命だからこそ、今を精一杯生きようとする心情を養う。  
 (イ) 展開

思考過程	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・指導上の留意点 変容を見るための ◇評価観点◆評価方法
気づく / つかむ / 見	1 「 <u>本当の幸せ</u> とはどんなことか、話し合う。  2 「命を見つめて」を読んで話し合う。 ① 感動した場面について考えを道徳ノートに記入する。  ② グループでお互いの考えを交流しあう。	○本当の幸せってどんなことだと思いますか。 ・好きなことができる ・友達と仲良くできる。 ・家族みんなが元気である。  ○「命を見つめて」を読んで、感動した場面はどこですか。その理由はどんなことですか。  <b>【交流タイム】</b> ・弱音を吐かないで、治療が続けたところ。 ・お母さんじゃなくてよかったといったところ ・作文を一生懸命に考えていたところ	・瞳さんの写真・プロフィール・「本当の幸せって何」の言葉カードを提示する。  ・一人ひとりに自分の考えを持たせるために、道徳ノートに記述させる。  ・ノートの記述をもとに交流タイムを行い、友達と思いや考えを伝え合うことで、児童一人ひとりの「命」に対する見方や考え方・感じ方を深めさせる
つめ る / あたためる	③ 全体で話し合う。  3 瞳さんが伝えたかった「 <u>本当の幸せ</u> とはどんなことか話し合う。  4 今日の学習をふり返り、「生きる」ことについて、自分の考えをまとめる。	・どうしてこんな生き方ができたのかな。 ・本当の幸せに気づいたからかな。  ○瞳さんが言いたかった「本当の幸せ」とはどんなことだと思いますか。 ・今、命があるということ ・今生きているということ。 ・自分のできることを、一生懸命にすること。 ・輝いて生きているということ  ○命を輝かせる生き方とはどんな生き方でしょうか。	・感動した場面を話し合う中で、どうしてこんな生き方ができたのかに目をむけさせ、「本当の幸せ」について話し合う方向付けをする。 ・瞳さんの弁論大会のときの動画を視聴させることで、瞳さんの言葉に一人ひとり真剣に向き合わせたあと、道徳ノートに考えを記述させ、全体で話し合う。 ◇自他の生命を大切にしようとしている。 アー精一杯生きようとする想いに触れる イー命の大切さに触れる ウー感想のみに終わっている。  ◆道徳ノート（心ノート） ・命を輝かせる生き方について、自分なりのまとめをし、本時のふり返りとさせる。 ・その際、頑張っていることを数名に発表させ、頑張っていることが輝いて生きていることだと気づかせたい。

(ウ) 授業記録

① 本時の板書

「本当の幸せ」

「命を見つめて」

ひとみさん

ひとみさんが伝えたい「本当の幸せ」とは…

- 今生きていることを大切にしてほしい。
- 今生きていることがすばらしい。
- 一日一日を大切に生きる
- 生きていることに感謝

友だちといられること  
何か食べているとき  
平和な世界にいる  
家族と  
生きていること

「本当の幸せ」とは、どんなことだろう?

学習活動3 ひとみさんが伝えたかった「本当の幸せ」についての話し合いの記録

学習活動2 「感動した場面」についての話し合いを、3つの視点(病気と闘う瞳さん・家族を思いやる瞳さん・思いを伝える瞳さん)でまとめて記録

学習活動1 話し合った「本当の幸せ」の記録

資料1 「命を見つめて」板書

② 本時の児童のノート

授業後 保護者からの一言

学習活動4 学習活動3の話し合いを受けて、瞳さんが伝えたかった「本当の幸せ」について自分の考えを書き、全体での話し合いにつなげる。話し合いの中で、付け加えをする児童もいた。

学習活動1 「本当の幸せ」についての自分の考えを記入後、全体で話し合う。

学習活動2 感動した場面を記入後、グループで交流タイム。友達の考えを聞いて、付け加えをする児童もいた。

感動した場面	感動した理由
① 目を覚めた瞬間	① 目の覚めあやうさに命がけで頑張っていた
② 子どもの死	② 命をなくして帰らなかつたのは辛い
③ 子どもの死	③ 命をなくして帰らなかつたのは辛い
④ 子どもの死	④ 命をなくして帰らなかつたのは辛い
⑤ 子どもの死	⑤ 命をなくして帰らなかつたのは辛い
⑥ 子どもの死	⑥ 命をなくして帰らなかつたのは辛い

資料2 「命を見つめて」児童の「心ノート」

## (エ) 本時の考察

### ① 自分の考えを持たせるための手立てについて

- ・ 道徳の時間を中心に「心ノート」(A4版、横罫のノートを使用)を持たせ、活用してきた。継続して活用してきたことで、素直に自分の思いを書けるようになってきた。本時においても、短時間での設定にも関わらず、全員が自分なりの「本当の幸せ」についての考えを書けた。心ノートの活用は、大変効果的である。
- ・ 「命を見つめて」を読んで感動した場面についての考えを書くことに、手間取っている児童が見られた。長文の資料でもあるので資料をプリントアウトして渡し、書き込みができるように工夫する必要があった。

### ② 思いや考えを伝え合うための手立てについて

- ・ 全員が思いや考えを伝え合うことのできる場として交流タイム(4～5名のグループ)を設定した。思いや考えを伝え合うことはできているが、そこから、深め合うための手立ての工夫が必要である。その一つの工夫として、自分の考えと比べて“同じ”“少し似ている”“違う”の観点を持って交流タイムを進めることで、さらに深まりのある交流タイムになると考える。

### ③ 児童の道徳的価値を深めるための話し合いのキーワード(テーマ)設定について

- ・ 『『本当の幸せ』とはどんなことか』というテーマ発問を設定し、気づく段階・見つめる段階それぞれで考えさせた。これにより、本時の振り返りにおいて、「生きる」ことについての考えの深まりを児童自身に実感させることができた。
- ・ 瞳さんの弁論大会時の動画を視聴させたことで、児童に瞳さんの思いがより伝わり、見つめる段階での「本当の幸せ」についての考えを深めることができた。

### ④ 板書について

- ・ 「本当の幸せ」についての考えの深まりを実感させるために、左右に対比させて板書したことは大いに効果があった。さらに、効果的な板書についての研修を深めていく必要がある。

## (オ) 「総合単元的な道徳学習」に係る考察

### ① 国語「生き物はつながりの中に」

生き物としてのつながりに目を向けた説明文を通して、命のつながりに目を向けることができ、年間テーマの「命」について考えるきっかけとなった。

### ② 総合的な学習の時間「過去の出来事から“命”について考えよう」

- ・ 戦争について調べ学習をする際、初めは、武器や戦車、または、戦争の事実だけに興味を示していた児童がいたが、道徳Ⅰ「命を見つめて」や調べ学習の一環として視聴したアニメ「対馬丸」、ゲストティーチャーによる戦時中の話などを通して、“命・生きること”に目を向けられるようになってきた。

### ③ 道徳Ⅰ「命を見つめて」・道徳Ⅱ「絶望の中で見つけた光」

- ・ 道徳Ⅰ「命を見つめて」を総合単元的な道徳学習の導入の一部として位置づけ、“限りある命だからこそ精一杯生きることの大切さ”を考えさせた。知識として“命は大切”と理解している児童に、瞳さんの生き方を通して、“命の大切さ”を心情に訴えて考えさせることができ、その後の総合単元的な道徳学習を深まりのあるものにしていくことができた。

- ・ 総合的な学習の時間の戦争についての調べ学習に取り組んだあとに道徳Ⅱ「絶望の中で見つけた光」を学習したことで、資料の中の戦時中の状況の理解が容易にでき、主人公「わたし」の思いに迫りながら、「“わたし”が学んだ多くのこととは何だろう」という話し合いのテーマにそって、“命を大切にしていこう”とする態度につながる思いを持たせることができた。

(2) 事例2 2年1組 総合単元的な道徳学習の授業実践(10月実施)

ア 総合単元名 「やさしいいっぱい いきいき2年生」

イ 単元のねらい

園児やお年寄り・友だちとふれあう活動を通して、新絶にすることの大切さに気づき、相手の気持ちを思いやるやさしい心をもって、周りの人と進んでふれあおうとする態度を養う。

ウ 単元構想図

各教科等		子どもの意識の流れ	道徳 道徳の時間における児童の 姿容を見るための評価観点 (◇)評価手法(◆)	学校行事 ・ 日常活動等	総合単元における児童 の姿容をみるための評価 ◇観点 ◆方法
その他の教科等	生活科				
	<p>9月中旬 ～9月下旬 単元名 「むかしのおも ちゃにチャレンジ」 (道徳との関連性) ・昔のおもちゃ の作り方や、 遊び方などを 教えてもらう ことを通して、 何かをして、も たらうことと心 地よさを感じ させる。 G.T 祖父母</p>	<p>おじいちゃんたちに教え てもらったのが、たのしみだ なあ。</p> <p>親切にすると自分も相手 もうれしいな。おじいちゃん やおばあちゃんたちとど つとふれあいたいなあ。</p>	<p>道徳Ⅰ 9月下旬 主題名：親切の花をさか せよう 資料名：こころの花 (学研) 2-(2)思いやり・親切 ねらい ○身近にいるお年寄りや 困っている人々に対す る思いやりの心を持ち、 他人に親切に接しよう とする心情を育てる。</p>	<p>あつたかポスト・ ぼかぼかの木</p> <p>朝の会での日直の話・ 帰りの会での今日のさ らり(親切にしてくれ た人・やさしくしてい た人)</p>	<p>◇「親切」という言葉の 意味が分かり、親切な 行動ができています。 ◆「親切」に関する自由 記述およびアンケート 【1回目 9月】</p> <p>◇祖父母とふれあうこと の心地よさを感じてい るか。 ◆活動における行動観 察 ◆生活科等の活動後の ワークシートによる見 取り ◆日常の行動観察</p>
<p>10月上旬 学級活動 単元名 「保育園生とな かよくなるう」 (道徳との関連性) ・保育園生との ふれあいを通 して、相手の ことを考えて 行動する大切 さに気づかせ る。</p>	<p>うれしかったなあ。次は、自 分たちが他の人を喜ば せてあげたいなあ。</p> <p>みんなに喜んでもらうた めにどんなおもちゃを作 ろうかな。なかなかま くいくかないぞ。</p>	<p>道徳Ⅱ 10月上旬 主題名：友だちがいい な 資料名：プランコ (光村図書) 2-(3)友情・助けあい ねらい ○友だちと仲よくし 助け合おうとする心 情を育てる。</p>	<p>1・2年修学旅行</p>		
<p>10月中旬 ～11月上旬 単元名 「ワークおも ちゃまつりをし よう」</p>	<p>友だちと仲よくして、助 けあうまくいそうだ。</p> <p>みんなが喜んでくれるお 祭りにしたいなあ。</p>	<p>道徳Ⅲ 10月22日 (本時) 主題名：思いやりの心 資料名：ぐみの木と小 とり (文溪堂) 2-(2)思いやり・親切 ねらい ○困っている人や弱 い立場の人を思い やり、温かい心で 接し、進んで親 切にしようとする 態度を養う。</p>		<p>南小祭り</p>	<p>◇友だちと協力して、 仲よくおもちゃを作 っているか。 ◆活動における行動 観察 ◆生活科等の活動後 のワークシートによる 見取り ◆日常の行動観察</p>
<p>10月中旬 ～11月上旬 図工科 単元名 「つくってあそ ぼう」 (道徳との関連性) ・園児が楽しめる おもちゃを作る ために、友だちと 協力しようとし る思いをもたせ る。 ・招待する人に 楽しんでもらおう とする思いを高 めさせる。</p>	<p>お祭りをやるから保 育園生やおじいちゃん やおばあちゃんに やさしくしたいなあ。</p> <p>お祭りが成功した。友 だちと協力してよかつた。 招待した人の気持ちも 考えて取り組んだから なあ。</p>	<p>◇困っている人や弱 い立場の人を思い やり、温かい心で 接し、進んで親 切にしようとする 意欲を高めたか。 ◆発言、ワークシ ート</p>	<p>◇周りの人や招待した 人々にやさしくしよ うという態度が見受 けられるか。 ◆活動における行動 観察 ◆日常の行動観察 ◆国語科の作文(紹介 文) ◇「親切」という言葉 の意味が分かり、親 切な行動ができてい るか。 ◆「親切」に関する自 由記述およびアン ケート 【2回目 11月】</p>		
<p>11月中旬 国語科 単元名 「しょうかい文 を書こう」 (道徳との関連性) ・友だちのよい ところを見つ けて紹介する 文を書き、読み 合おうことを 通して、友だ ちとやさしい 思いでふれあ うことの大切 さを実感させ る。</p>	<p>みんなが笑顔になる活 動ができてよかつたな。 これからもみんなに やさしくしていきたい なあ。</p>				

めざす子ども像

○親切にすることの大切さに気づき、相手の気持ちを思いやるやさしい心をもって、周りの人と進んでふれあおうとする子ども

エ 道徳Ⅲ 主題名 思いやりの心 資料名「ぐみの木と小とり」

(ア) ねらい 嵐の中でも、病気のりすにぐみの実を届ける小鳥の姿を通して、相手のことを思い、やさしく接していこうとする態度を養う。

(イ) 展開

	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	指導上の留意点変容を見るための ◇評価観点 ◆評価方法				
気づく ／ つかむ	1 資料「ぐみの木と小とり」の話を聞き、資料の情景をつかむ。	○「ぐみの木と小とり」の話をします。	・ペープサートを使用し、読み聞かせをする。 ・資料の情景をつかませるために、挿絵や言葉を提示し、話の内容をつかませる。				
	2 ぐみの木が嵐の中に行くのを止めたのに、小鳥が届けに行ったわけを考える。 【交流タイム】	◎小鳥さんが、次の日もりすさんのところに行ったわけを考えよう。					
見つける	(1) 2人組で役割演技をする。	○ぐみの木さんが「嵐なのに行くんですか。」と言ったとき、小鳥さんとぐみの木さんは、どんな会話をしたでしょう。隣の人と会話をしてみよう。	・ねらいとする価値に迫るために、小鳥とぐみの木になって隣の席の友だちと役割演技をさせる。 ・「小鳥さん嵐なのに行くんですか。」というぐみの木の言葉から会話をさせる。 ・友だちの思いや考えを伝え合うことで児童一人一人の見方や考え方・感じ方を深めさせる。				
	(2) 代表児童による役割演技をもとに話し合う。	○みんなで会話について考えよう。 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-right: 10px;"> <tr> <td>〈小鳥〉</td> <td>〈ぐみの木〉</td> </tr> <tr> <td>・りすさんが持っているから届けるよ。 ・嵐でもりすさんが心配だから実を届けるよ。 ・りすさんと約束したから行くよ。 ・早く嵐がやまないかなあ。 ・嵐がやむのをまって、行くよ。 ・嵐だから、今日は行くのをやめます。</td> <td>・大丈夫。 ・りすさんが心配だね。 ・本当に行くの。 ・やんでからにした方がいいよ。 ・そうだね。明日、嵐がやんでからがいいよ。 ・うん。</td> </tr> </table>	〈小鳥〉	〈ぐみの木〉	・りすさんが持っているから届けるよ。 ・嵐でもりすさんが心配だから実を届けるよ。 ・りすさんと約束したから行くよ。 ・早く嵐がやまないかなあ。 ・嵐がやむのをまって、行くよ。 ・嵐だから、今日は行くのをやめます。	・大丈夫。 ・りすさんが心配だね。 ・本当に行くの。 ・やんでからにした方がいいよ。 ・そうだね。明日、嵐がやんでからがいいよ。 ・うん。	・代表の児童による役割演技をさせ、全体で話し合うことでお互いを思いやる2人の気持ちに共感させる。
	〈小鳥〉	〈ぐみの木〉					
・りすさんが持っているから届けるよ。 ・嵐でもりすさんが心配だから実を届けるよ。 ・りすさんと約束したから行くよ。 ・早く嵐がやまないかなあ。 ・嵐がやむのをまって、行くよ。 ・嵐だから、今日は行くのをやめます。	・大丈夫。 ・りすさんが心配だね。 ・本当に行くの。 ・やんでからにした方がいいよ。 ・そうだね。明日、嵐がやんでからがいいよ。 ・うん。						
(3) 小鳥がりすのところにいったわけを考える。	○小鳥さんが、りすさんのところに行ったのはなぜでしょう。わけを考えよう。 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-right: 10px;"> <tr> <td>〈小鳥〉</td> </tr> <tr> <td>・約束していたから。 ・(りすさんが) 待っているから。 ・心配だから。 ・喜んでくれたから。 ・ぐみの木さんも心配しているから</td> </tr> </table> 相手を思いやる心、やさしい心	〈小鳥〉	・約束していたから。 ・(りすさんが) 待っているから。 ・心配だから。 ・喜んでくれたから。 ・ぐみの木さんも心配しているから	・小鳥とぐみの木の相手を思う気持ちに気づかせる。 ・ぐみの実を届けてもらったりすの気持ちにもふれることで、親切にってもらう側の気持ちも考えさせる。			
〈小鳥〉							
・約束していたから。 ・(りすさんが) 待っているから。 ・心配だから。 ・喜んでくれたから。 ・ぐみの木さんも心配しているから							
あたためる	3 小鳥に手紙を書く。	○みんなから小鳥さんにお手紙を書きましょう。 ・小鳥さん、よく届けたね。やさしいね。私も小鳥さんのように困っている人を助けるよ。 ・小鳥さん、嵐の中よく行ったね。僕も小鳥さんのように人にやさしくするよ。 ・小鳥さん、嵐の中に行ってやさしいね。 ・小鳥さん、ぐみの実を届けてやさしいね。 ・小鳥さん、嵐の中よく行ったね。 ・小鳥さん、ぐみの実を届けてすごい。	・書けない児童のために、書き出しの言葉を書いたワークシートを用意しておく。 ・数名の児童の手紙を紹介する。 ◇病気のりすに、ぐみの実を届けようとする小鳥のやさしさを感じ取り、進んで親切にしようとする意欲を高めることができたか。 ◆ワークシート・発言 ア 親切にしようという意欲にふれている。 イ 親切にしたことについてふれている。 ウ 届けたことだけにふれている。				
	4 保育園の先生からの手紙を読む。	○保育園の先生から2年生に手紙をもらいました。今から読みます。	・手紙を読み、「おもちゃまつりをしよう」への思いを高める。				

## (ウ) 本時の考察

### ① 児童の道徳的価値を深めるためのテーマ発問の設定について

「小鳥さんが、次の日もりすさんのところに行ったわけを考えよう」をテーマとすることで、病気のりすを元気にしてあげたい思いや、りすのことを心配するぐみの木への思いに目を向けさせようと考えた。病気のりすを思いやる気持ちにしっかり迫ることができたが、ぐみの木の思いまで迫るのは難しかった。りすを思って行動する小鳥の心情に、役割演技やその後のテーマについての話し合いで迫ることができ、ねらいとする価値を深めることができた。本時の目標である意欲を高めるところまで到達できた児童は、ワークシートの見取りでは30%ほどであった。

### ② テーマに迫る考えを持たせるための役割演技の設定について

役割演技では、次の日、小鳥が嵐の中行こうとする場面を取り上げた。当初は、ぐみの木の「嵐がやんでからにしてはどうですか。」を会話の始まりの言葉に設定していた。しかし、それに対する小鳥の返事が「そうします。」になりがちで、そこからの会話が広がりにくいと考え、「嵐なのに行くんですか。」に変更した。そうしたことで、小鳥の返事がりすを思いやる言葉になり、会話をさらに続けて小鳥やぐみの木の思いを表現できる児童が多かった。

### ③ 小鳥の行動のわけを考えさせるためのワークシートの活用について

テーマ発問で客観的に小鳥の行動のわけを考えただけで、相手を思う小鳥の気持ちに気付き、小鳥の行動に思いやりの心を見出すことができた。その後、小鳥への手紙を書かせる活動を取り入れたことで、ほぼ全員が、小鳥の優しさへの思いを自分なりの言葉で表現できていた。また、30%ほどの児童が、「ぼくも小鳥さんのようにやさしくしてみたいなあ」「小鳥さんはぼくの見本です」というように自分自身の優しい行動への意欲につながる思いを持つことができていた。

テーマについてしっかり考えた後で、一人ひとりの思いを表現するワークシートを活用することは、児童自身が本時の学びをまとめるためにも効果があると考えられる。

### ④ 他教科とのつながりを意識した終末の工夫について

授業の終末で、学級活動「保育園生となかよくなるろう」の振り返りをさせる際、保育園生と遊んだときの写真を提示した後、2年生の思いやりのある言動を取り上げた保育園の先生からの手紙を読んだ。この活動を設定したことで、自分たちに直接関わる思いやりの心を想起することができ、これからの総合単元的な道徳学習への意識付けにもなったと考える。

## (エ) 「総合単元的な道徳学習」に係る考察

### ① 生活科「むかしのおもちゃにチャレンジ」

祖父母とふれあう活動をした後に、道徳Ⅰ「こころの花」で親切にしようとする心情を育てる学習を仕組んだことで、祖父母とふれあう自分自身の姿を具体的に思い浮かべることができ、ふれあうことの楽しさと合わせて、相手のことを思いやって行動することの大切さに目を向けることができた。

### ② 学級活動「保育園生となかよくなるろう」

道徳Ⅰの学びの後に、保育園生とのふれあいの活動を仕組んだことで、“やさしくしよう”という思いを持って活動できた。また、やさしさを行動に移せていた児童の姿を書いた保育園の先生の手紙を用意し、道徳Ⅲの終末の活動で活用したことで、生活科の「ワクワクおもちゃまつりをしよう」に、児童の、保育園生にやさしくしてあげたいという意識をつなぐことができた。

### ③ 図工・生活科の合科「つくってあそぼう」

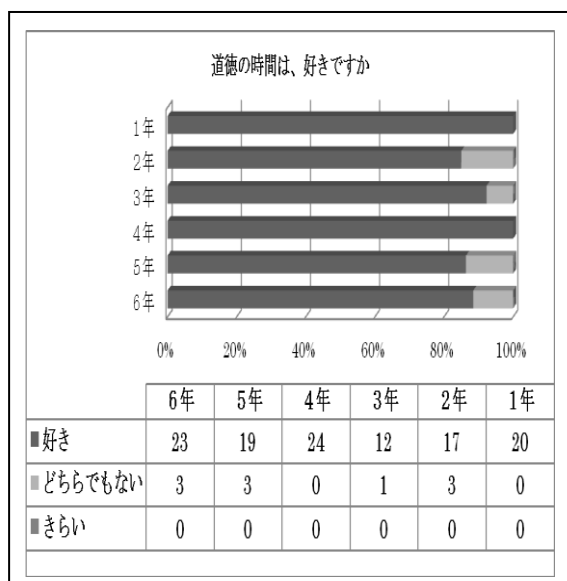
「作ってあそぼう」の活動の途中で道徳Ⅱを実施した。グループの友達と一緒におもちゃ作りをする過程で、友達との共同作業の中で困った体験が、道徳Ⅱの資料「ブランコ」での動物たちの様子と重なった。そのため、相手のことを考えながら友達となかよく活動をすることで、おもちゃ作りがうまく進むことを考えることができたので、その後のおもちゃ作りをスムーズに進めるためのきっかけの学習とすることができた。

### ④ 生活科「ワクワクおもちゃまつりをしよう」

道徳Ⅲの学習を仕組んだことで、まつりをするときの保育園生や祖父母への関わり方への意識付けをすることができ、ただ単にまつりをして遊ぶだけでなく、招待した人に楽しんでもらえるように相手のことを考えて行動するという単元のねらいにつなぐことができた。



(3) 児童の「道徳の時間」に関する調査より  
ア 道徳の時間に関する意識



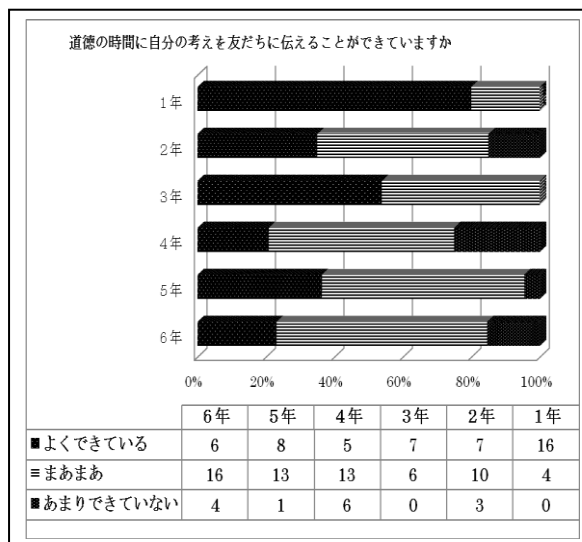
【「好き」の主な理由】

- 1年：楽しいから。おもしろいから。読むのとか、見るのが楽しい。考えることが好き。話が好き。
- 2年：楽しいから。おもしろいから。心が落ち着くから。心の勉強になるから。人の気持ちを考えるから。
- 3年：気持ちが分かるから。友だちのことがよくわかるから。心が温まるから。正解とかがなく楽しく発表できるから。
- 4年：人の気持ちを想像できるから。心を育てることができる。自分の思ったことが言えるから。
- 5年：優しい心になるから。友だちの考えが聞けるから。自分の考えを聞いてもらえるから。
- 6年：命の尊さ・大切さを学べた。心を豊かにできる。人の考えが聞けるから。

図1 道徳アンケート「道徳の時間は、好きですか」結果

児童の道徳の時間への意識調査の結果、「嫌い」と思っている児童はいない。好きと答えた児童が90%を超えており、道徳の時間への学習意欲が高いことが分かる。好きな理由を見ると、資料中の登場人物の気持ちを考えることに楽しさを見出している児童が低学年に多い。また、ここ数年取り組んできたお互いの考えを交流し考えを深める“交流タイム”で、友達の考えを聞いたり自分の考えを伝えたりすることに楽しさを見出している児童が中・高学年で多くなっている。

イ 道徳の時間の伝え合いに関する意識



【できている理由】

- 1年：たのしいから。おもしろいから
- 2年：話を聞いてくれるから。
- 3年：発表するのが好き。友だちが聞いてくれるから。
- 4年：自分の考えをみんなに伝えたいから。発表が好き。
- 5年：伝え合いはとても大事。思いが伝わるから。
- 6年：グループで交流をしているから。

【できていない理由】

- 1年・2年・3年：はずかしい。
- 4年：伝える自信がない。発表が苦手。自分が言っても反応がないし、質問もかえってこない。
- 6年：グループでないと、うまくいえない。

図2 道徳アンケート「道徳の時間に、自分の考えを友だちに伝えることができますか」結果

登場人物の気持ちや道徳的価値に関する考えを持ち、それを伝え合うことが道徳の時間の大切な学習活動であるが、約90%の児童が自分の考えを伝えることが「よくできている」「まあまあできている」と答えている。自分なりに思いを伝えることができ満足していると考えられる。できていると考える理由を見ると、「話を聞いてくれる」「思いが伝わる」など聞き手の態度に満足感を得ている児童が多いことが分かる。反面、できていないと考える理由は、「はずかしいから」「上手く言えないから」など、児童自身の発表する力に関わる理由が多く見られた。

## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 道徳の時間と各教科等を関連させ、児童の実態や児童の意識の流れを大切にしたい総合単元的な道徳学習を構想し、指導の流れを「単元構想図」に分かりやすく示したうえで実践してきたことで、道徳教育を意図的・計画的に進めることができた。
- ・ さまざまな体験活動や地域のゲストティーチャーを取り込んだ学習活動を実践してきたことで、地域へも目を向けた幅広い学びができ、地域への愛着を深めることができた。
- ・ 道徳の時間を大切にしたい、児童の意識の流れを大切にしたい授業作りを心がけた実践を継続してきたことで、児童は、意欲的に道徳の時間に取り組んだ。
- ・ 場面ごとに登場人物の気持ちなどを順序よく考えながら話し合いを進める学習の流れから、ねらいに迫るために中心となる場面に視点をのぞいた話し合い（交流タイムや役割演技）に十分時間をかける学習の流れへの変換を試みた。ねらいに迫るための話し合いの中心となる課題を「テーマ発問」として設定し、そのテーマについて児童が自分なりの思いや考えを持って伝え合うことで、ねらいとする道徳的価値を深め合うことができるようになってきた。
- ・ 伝え合う時間の進め方を児童の実態に合わせて、交流タイムや動作化・役割演技など意図的・計画的に工夫して取り入れてきたことで、児童の伝え合うことへの抵抗が少なくなり、伝え合うことへの意欲が高まった。
- ・ 道徳の時間の学習の流れの工夫にあわせて板書の構造化を図り、児童の思考を表し、深め合うための板書のあり方の方向性が見えてきた。
- ・ 児童の思いや考えを表現するワークシート（道徳ノート）を工夫したことで、児童は、自分の思いや考えをまとめることができるとともに、児童の学びの姿を把握することができた。さらに、他教科等への学習に生かすきっかけとすることもできた。これは、まさに道徳の時間を要とした道徳学習となった。
- ・ 道徳の時間の授業作りを中心に置いた研究を、方向性を定めて実践してきたことで、担任全員による研究授業はもとより、級外教員による自主的な研究授業や、授業作りに関する日常的な意見交流などが活発に行われ、教員集団の授業作りへの機運が大いに高まった。
- ・ 縦割りグループで、運動会、星まつり集会等の学校行事や清掃活動、グループ遊び等に年間を通して意図的に取り組ませたことにより、学年を超えて親しく交流する姿が日常的に見られた。
- ・ 児童の心が豊かになるように年間計画を立て、日常的に学校の道徳的環境を整えたことは効果的であった。

### (2) 課題

- ・ 話し合いの中心となる課題「テーマ発問」の設定の仕方や取り上げる場面についての研究をさらに深める。
- ・ テーマ発問を設定した授業の流れができる資料か否かを見極める力を、指導者自身が高める。
- ・ 話し合いを深めるための効果的な交流タイムの進め方や役割演技の場の設定の仕方などの研究を深める。

## 6 引用文献・参考文献

- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領」 平成20年3月
- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領解説 道徳編」 平成20年8月
- ・ 第38回九州地区道徳研究大会 平成24年度大分大会 研究紀要
- ・ 筑波発 道徳授業の改善 - 道徳授業の新しい展開 - 加藤宣行 山田誠 共著 不昧堂出版
- ・ 道徳授業を変える教師の発問力 加藤宣行 著 東洋館出版社